

岩崎遺跡

—長野市立綿内保育園改築事業に伴う発掘調査—

1993・3

長野市教育委員会

序

社会生活の変化と共に「物の豊かさ」から「心の豊かさ」が求められる今日、文化財は現代人の心の糧として欠くことのできぬ、貴重な国民的財産であると考えます。

特に埋蔵文化財は、直接大地に刻み込まれた歴史であり、当時の物質文化のみならず信仰・宗教等の精神史など、文化の始原をも内包する基準資料であり、埋蔵文化財そのものが歴史・文化を考えるうえでの実証者といえましょう。

このたび綿内保育園改築事業に伴い、岩崎遺跡の発掘調査を実施いたしました。

事業予定地周辺は過去の調査で重要な埋蔵文化財が発見されており、古代史研究上注目されていた地域であり、今回の調査でもそれぞれ多大な成果が得られました。

本書はその成果を要約し、長野市の埋蔵文化財第53集として報告するものです。この報告書が地域古代史の解明や文化財保護の一助として、学術的に関係各方面に広くご活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書刊行にいたるまで公私にわたり多大なご援助・ご指導を賜りました関係諸機関ならびに各位に心からお礼申し上げます。

平成5年3月

長野市教育委員会

教育長 奥村秀雄

例　　言

- 本書は平成3年度児童福祉施設整備事業（長野市立綿内保育園改築事業）にともない実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 調査は長野市児童福祉課の委託を受けて、長野市教育委員会が実施した。
- 調査地は長野市若穂綿内6700-1に位置するが、周知の岩崎遺跡の範囲内と理解できるために、岩崎遺跡として報告するものである。
- 本書は矢口の指導のもとに千野が執筆・編集したが、第4章は西沢寿晃氏（信州大学医学部第2解剖学教室）に玉稿を賜った。
- 調査によって得られた諸資料は長野市教育委員会（長野市埋蔵文化財センター）で保管している。
- 遺構の測量は市原真測図研究所に委託し、コーデックシステムにより1:20の縮尺で基本原図を作成した。本書で用いた遺構図の縮尺はそれぞれ明示してある。
- 遺物実測図に関しては基本的に1:3に統一してあるが、その他のものについては適宜縮尺してある。

目　　次

序

例言

第1章 調査経過	1
1 調査に至る経過	1
2 調査体制	1
第2章 調査地周辺の考古学的環境	5
第3章 遺構と遺物	8
第4章 岩崎遺跡出土の人骨について	18

挿　図　目　次

図1 調査地ならびに調査地周辺の地形①	図12 3号住居址出土土器実測図①
図2 調査地ならびに調査地周辺の地形②	図13 3号住居址出土土器実測図②
図3 調査地周辺字境図	図14 3号住居址出土土器実測図③
図4 調査地周辺遺跡分布図	図15 土壙実測図
図5 調査区全測図	図16 1号墓址実測図
図6 1号住居址実測図	図17 2号墓址実測図
図7 1号住居址出土土器実測図	図18 1号溝址実測図
図8 2号住居址実測図	図19 2号溝址出土土器実測図
図9 2号住居址出土土器実測図	図20 1号溝址出土土器実測図①
図10 3号住居址出土帶金具実測図	図21 1号溝址出土土器実測図②
図11 3号住居址実測図	

第1章 調査経過

1 調査に至る経過

長野市若穂綿内岩崎地籍は、地形的には千曲川によって形成された自然堤防上に位置し、調査地の北西に展開する水田地帯は千曲川の旧流路と考えられる。

平成2年長野市児童福祉課は、平成3年度児童福祉施設整備事業として長野市立綿内保育園の改築事業を計画した。

事業予定地は周知の「岩崎遺跡」の範囲内に位置するため、長野市教育委員会は同児童福祉課の委託を受け、事前に埋蔵文化財の存在の有無を確認するため、試掘調査を実施することになった。

試掘調査は平成2年12月7日に、事業予定地内の任意の地点2か所について実施した。両地点における土層堆積状況はおおむね一致し、現地表下50cm内外に存在する黒褐色シルト層が遺物包含層と認定された。

この結果より、事業面積800m²中、掘削等の工程により埋蔵文化財に破壊のおよぶ可能性の高い園舎建築部分約400m²について、記録保存を前提とした発掘調査の必要性が確認された。

本調査は工事工程等との関連より、平成3年7月3日より開始し、7月19日まで実質13日間にわたって実施した。

2 調査体制

平成3年度		平成4年度	
調査主体者	長野市教育委員会教育長 奥村 秀雄	調査主体者	長野市教育委員会教育長 奥村 秀雄
総括責任者	市埋蔵文化財センター所長 小山 正	総括責任者	市埋蔵文化財センター所長 小山 正
庶務課	" 所長補佐 山中 武徳	庶務課	" 所長補佐 山中 武徳
	" 職員 青木 厚子		" 職員 青木 厚子
調査係	" 調査係長 矢口 忠良	調査係	" 調査係長 矢口 忠良
	" 主事 青木 和明		" 主査 青木 和明
	" 主事 千野 浩		" 主事 千野 浩 飯島 哲也
	" 主事 飯島 哲也		
	" 専門員 中殿 章子	" 専門員 中殿 章子 横山かよ子	
	" 専門員 横山かよ子		笠井 敦子 山崎 佐織
	" 専門員 森泉かよ子		寺島 孝典 山田美弥子
	" 専門主事 小松 安和	" 専門主事 小松 安和 羽場 卓雄	
	" 専門主事 羽場 卓雄		太田 重成
	" 専門主事 太田 重成	調査員 矢口 栄子	
調査指導	西沢寿晃(信州大学医学部第2解剖学教室)	整理参加者	岡沢 治子 徳成奈於子 池田 見紀
参加者	植木温子 神頭幸雄 西尾千枝 向山純子		
	芦田 淳 鰐沢啓子 小松末喜子 松浦サトミ 柄沢	執筆参加者	西沢 寿晃
清志	油井恵子 岡沢治子 徳成奈於子 池田見紀		(信州大学医学部第2解剖学教室)
小泉ひろ美			

図1 開拓地等高線測量地図(1:10,000)

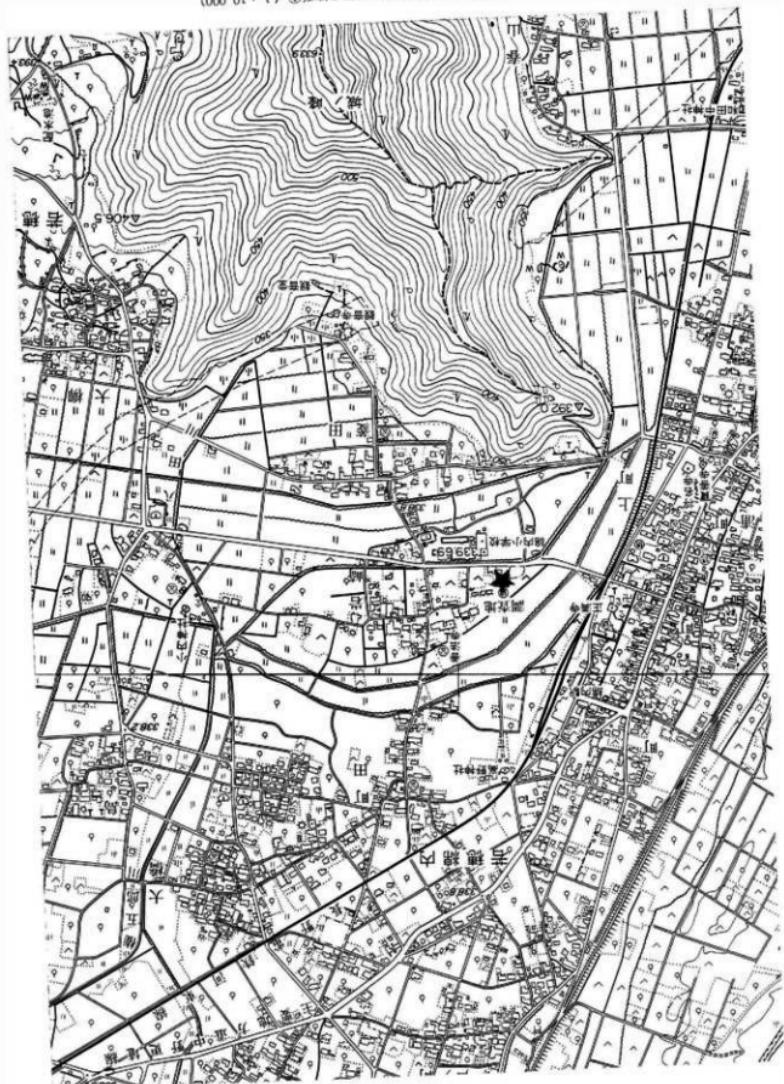




図2 調査地ならびに調査地周辺の地形② (1 : 20,000)

圖 3 鴨善地圖及手稿圖



第2章 調査地周辺の考古学的環境

長野市若穂地域は、地形的には千曲川によって形成された自然堤防とその周辺の低湿地、ならびに保科川・赤野田川等によって形成された扇状地によって構成される。この地域は「長野市若穂文化財地図」作成事業等により、かなり詳細な遺跡分布調査が実施されているが、正式な発掘調査例は少なく、実態は不明な部分が多い。しかし、近年長野自動車道建設事業に伴い大規模な発掘調査が実施され、従来の認識を大きく改めさせる成果が得られてきている。以下、正式の発掘調査がなされた遺跡を中心に概観し、周辺の考古学的環境としたい。

宮崎遺跡

昭和23年雪入益見・興津正嗣氏によって発掘され、敷石住居址とともに縄文後・晩期の土器が検出された。その後、昭和60年以降畑灌溉用散水パイプ埋設工事に伴い、市教育委員会により2次にわたる正式調査がなされた（長野市教委1988）。住居址3軒・石棺墓8基・土塙墓11基・埋め甕3基・集石遺構4基・遺物集中地点3ヶ所が検出されている。時期的には縄文中～晩期の集落址であり、現状では市内におけるもっとも大規模な縄文期の遺跡と考えられる。

古町遺跡

綿内町・芦ノ町・牛池にかけての千曲川の自然堤防上に広がる弥生時代後期から平安時代の集落遺跡である。正式調査はなされていないものの、昭和54年下水道工事に伴って平安時代の土師器・須恵器が発見され、昭和56年には道路改修工事の際に布目瓦が出土している。瓦片とともに土師器・須恵器も採集されており、平安時代・10世紀代のものと考えられている。単なる集落遺跡としてだけではなく、文献に記されていない廃寺が存在した可能性も高いものと言える。

樅田遺跡

千曲川右岸の自然堤防上および後背湿地に立地し、平成元年～3年にかけて上信越自動車道建設に伴い発掘調査される。弥生時代中期～近世にわたる複合遺跡であるが、弥生中期～後期・5世紀後半～6世紀・6世紀後半～7世紀前半・9世紀後半・15世紀代の集落が検出されている。特に弥生時代中期に二重の構に囲まれた環濠集落や、室町時代の環濠屋敷址など注目すべき遺構が検出されている。

春山B遺跡

上信越自動車道建設に伴い調査されたもので、千曲川右岸の自然堤防上に立地する。弥生時代中期～後期の集落と、後期の方形周溝墓群、弥生時代後期ならばに近世の水田が検出されている。

川田条里遺跡

千曲川右岸の後背湿地に展開する水田址を主体とした遺跡で、上信越自動車道建設に伴い調査がなされている。調査面積は10万m²以上におよび弥生時代中期・後期、古墳時代前期・後期、平安時代、中世、近世の埋没水田が検出されている。弥生時代の小区画水田をはじめ、各時代における水田開発技術・水田経営の方法等に関する具体的な事例が明確化されている。

綿内要害（春山城址）

春山の峰に構築されており、井上氏一族の居城と推定されている。山城は峰と春山の山頂部の細尾根に築かれており、郭・空堀・石壁・土壘が残存する。創築年代は戦国時代と考えられている。

参考文献 長野市若穂公民館1983『若穂の文化財』

長野県埋蔵文化財センター1989・90『長野県埋蔵文化財センター年報』6・7



1 岩崎遺跡 2 複田遺跡 3 前山田山遺跡 4 泰山遺跡 5 春山B遺跡 6 川田桑垂遺跡 7 町川田遺跡
 8 清水古墳群 9 大柳遺跡 10 大柳古墳群 11 驚木遺跡 12 大星山古墳群 13 和田東山古墳群 14 高下古墳群
 15 宮崎遺跡 16 白塚古墳群 17 小出遺跡 18 神明山遺跡 19 八幡下古墳群 20 大成谷遺跡 21 長原古墳群
 22 瓢箪古墳群 23 長田平遺跡 24 蓮花遺跡 25 小柳井上氏居跡 26 春山城址 27 雨台城址

図4 調査地周辺遺跡分布図

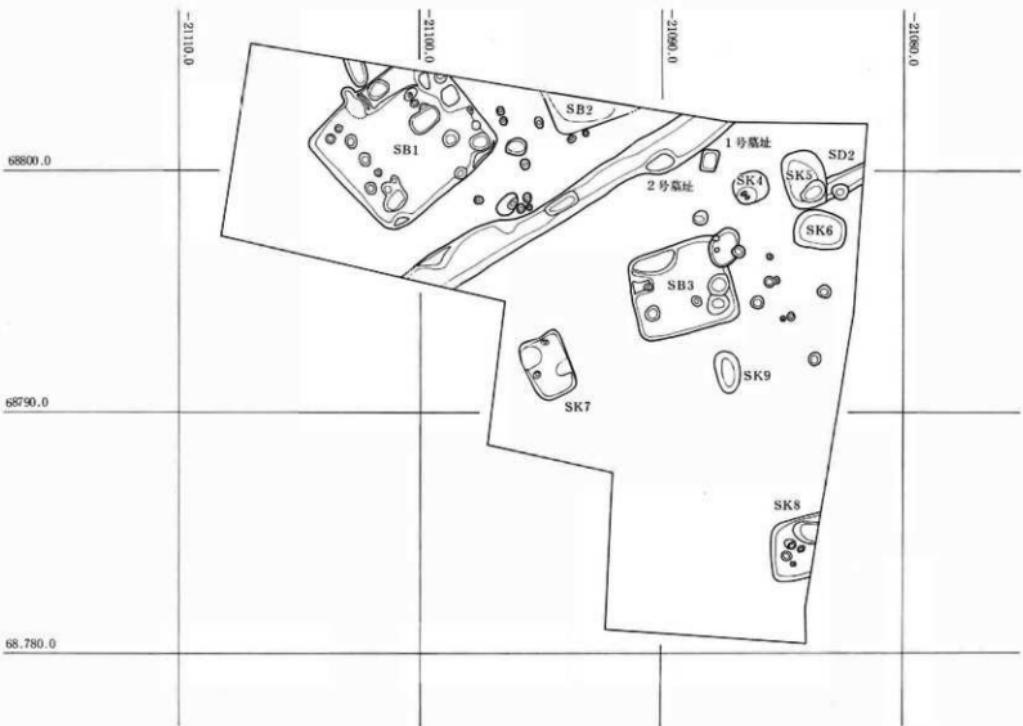


图5 调查区全测图

第3章 遺構と遺物

1号住居址 (図6~8)

調査区北西隅で検出された住居址で、住居址北隅が若干調査区外となるが、ほぼ完掘した住居址である。他遺構との切りあい関係はない。平面プランは $6.20 \times 5.50\text{m}$ ほどの隅丸方形住居址で、主軸方向はN-45°-Wである。確認面からの掘り込みは比較的深く、北壁・西壁で平均50cm前後、東壁で平均30cm前後を測る。床面は全体に軟弱で不明瞭なものである。柱穴はP1～P15を検出している。主柱穴は掘り込み規模や深さなどからP1～P4と考えられ、 $3.00 \times 2.50\text{m}$ のやや不整な4本方形配列である。P16～P18は、いずれも深さ10～15cm前後の浅いピットであるが、内部に多量の焼土・炭化物を含み、特殊な性格を有するピットである可能性が高い。ただしいずれのピットも底面には焼けた痕跡は認められなかった。東壁に位置するP19は最深部で30cm前後を測る。掘り方からみて本住居に直接伴うものと考えられるが性格は不明である。カマドは奥壁中央やや西よりのところに検出された。袖部はほとんど破壊された状況であったが、規模は両袖間外側で 0.70m 、長さ 0.80m ほどと推定

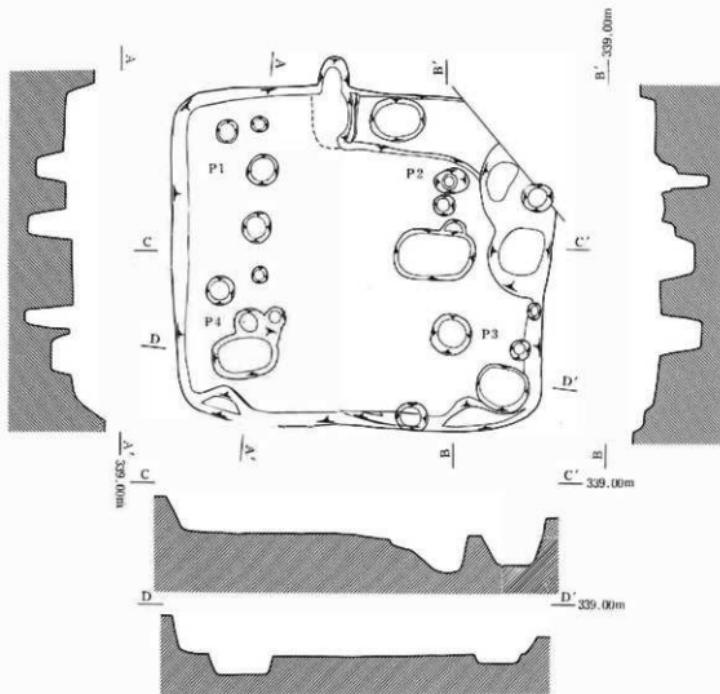


図6 1号住居址実測図 (1 : 80)

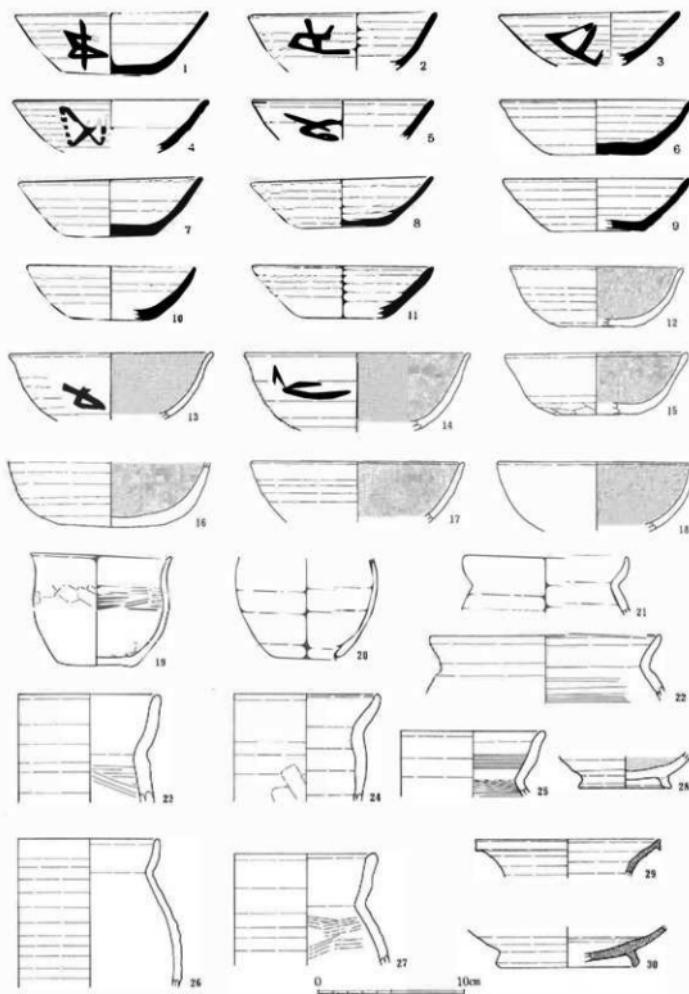


图7 1号住居址出土土器实测图

される。カマド東袖よりP19にかけて幅1m、高さ10cm前後のベッド状の高まりが検出されている。遺物は床面から覆土下層にかけて、比較的多量に出土している。特に墨書き器が量的に多い点注目される。

2号住居址(図8・9)

調査区北側中央付近にて検出された住居址であるが、大部分が調査区外となり詳細は不明である。住居址として扱ったが、土壌の可能性もある。

規模・主軸方向等は不明。形態は隅丸方形と予想される。確認面からの掘り込みは比較的深く平均1.00m前後である。床面は全体に軟弱で不明瞭なものであり、柱穴等の諸施設も確認されていない。

覆土内から須恵器・土師器・灰釉陶器の杯類が出土している。図9-8は綠釉陶器の破片であり注目される。

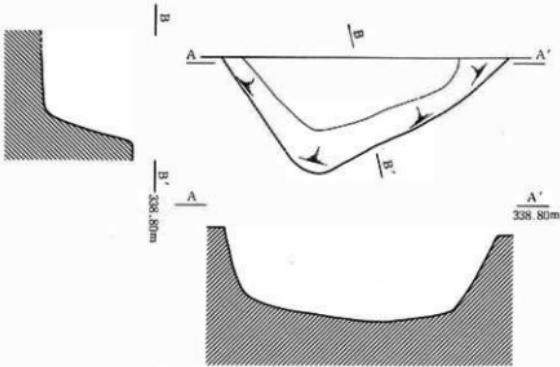


図8 2号住居址実測図(1:60)

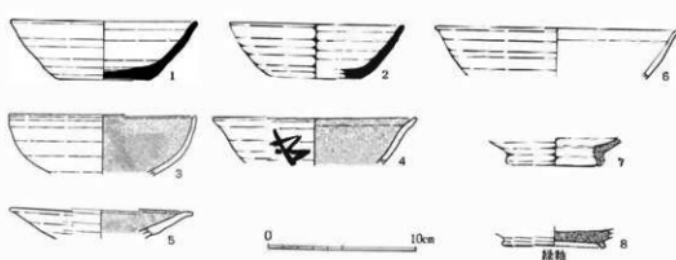


図9 2号住居址出土土器実測図(1:3)

3号住居址(図10~14)

調査区中央付近で検出された住居址で、北東隅を土壤に切られるが、ほぼ完掘した住居址である。平面プランは3.60×4.00mの隅丸方形住居址で、主軸方向はN-80°-Eである。確認面からの掘り込みは深く平均50cm前後である。床面は全体に軟弱で、不明瞭なものであった。柱穴はP1-P3が検出されているが、いずれも位置的には不規則なもので、主柱穴配列等不明である。P4・P5は本住居に直接伴うものではなく、後世の掘り込みと考えられる。西壁中央北よりのところに段状の高まりが検出されているが、軟弱なもので性格不明である。覆土下層から床面にかけて比較的多量の土器が出土している。また覆土内より、青銅製の帶金具の破片が出土している。



図10 3号住居址出土帶金具実測図

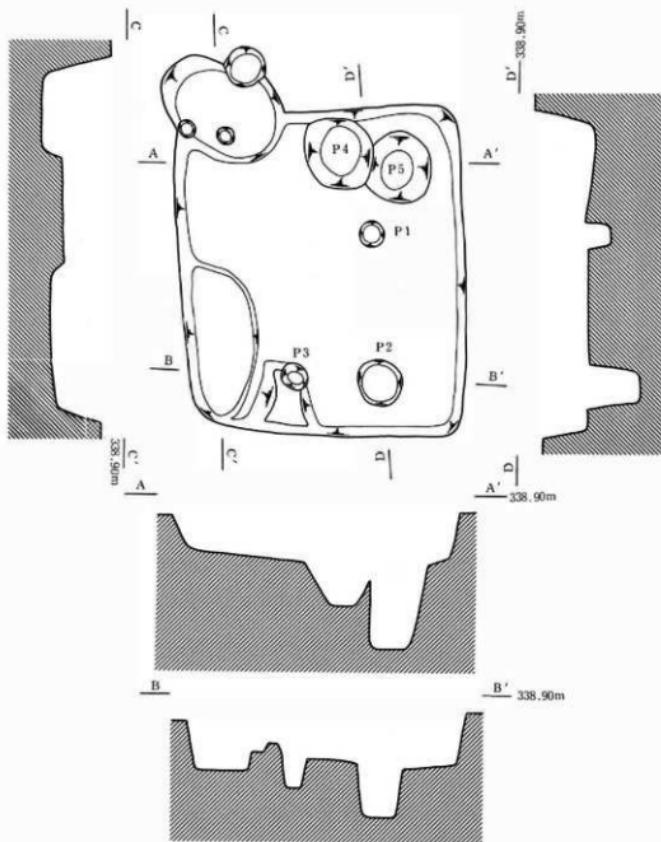


图11 3号住居址実測図 (1 : 60)

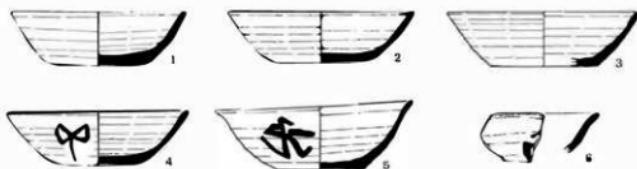


图12 3号住居址出土土器実測図① (1 : 3)

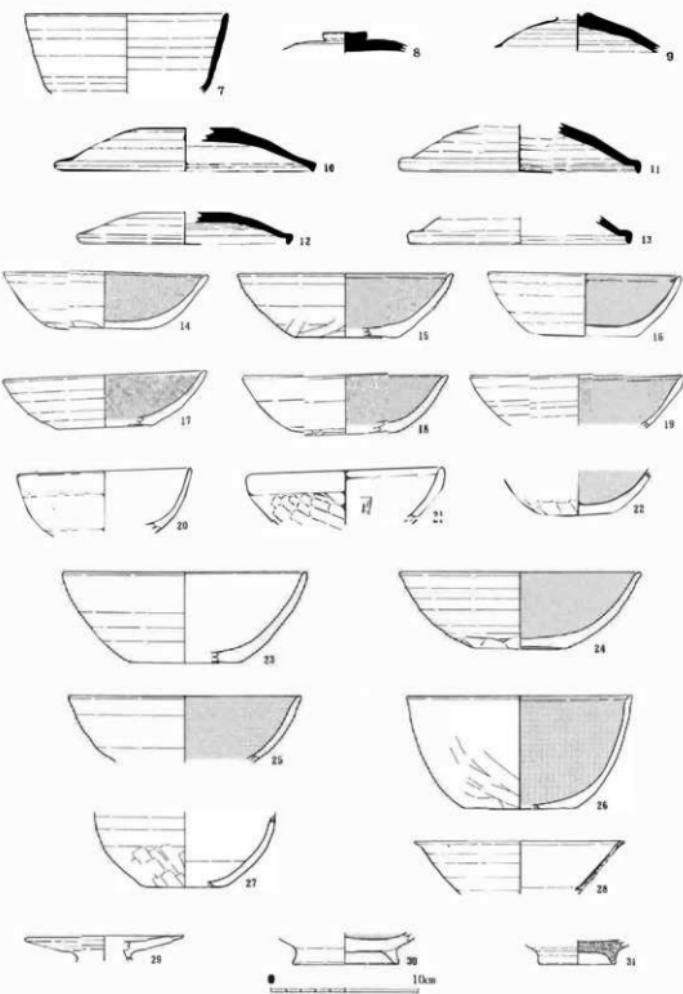


図13 3号住居址出土土器実測図② (1 : 3)

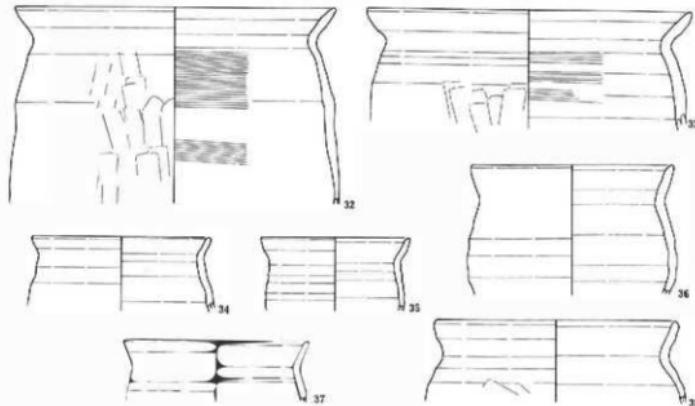


図14 3号住居址出土土器実測図③ (1 : 3)

1号土壙 (図15)

調査区北西隅で検出された土壙で、北側は調査区外となる。平面プランは長径1.50m・短径0.80m・深さ30cmほどの長楕円形と予想される。出土遺物より平安期のものと考えられる。

4号土壙 (図15)

調査区北東隅で検出された土壙で、平面プランは径1.40mほどのやや不整な円形を呈する。深さは約80cmを測り、壙底には径20cm・深さ10cmほどの小ピットを2個有する。出土遺物は無く、時期等詳細不明。

5号土壙 (図15)

調査区北東隅で検出され、平安期の2号構辻を切って構築される。平面プランは2.30×1.70mのやや不整な隅丸長方形を呈する。深さは平均70cm程であるが、内部にさらに径1.00mほどのピットを有する。時期等詳細不明。

6号土壙 (図15)

5号土壙の南側に検出されたもので、平面プランは2.10×1.50mのやや不整な隅丸長方形を呈する。深さは平均30cm程と浅い。出土遺物より平安期のものと考えられる。

8号土壙 (図15)

調査区南東隅で検出されたもので、東側は調査区外となる。平面プランは短辺2.50mほどの不整な隅丸長方形と予想される。内部に小ピットを多数有するが、性格は不明である。覆土内より青磁の小破片が出土しており、中世以降のものと考えられる。

9号土壙 (図15)

調査区東側中央付近で検出されたもので、平面プランは1.70×1.10mの長楕円形を呈し、深さは平均80cm程である。出土遺物より平安期のものと考えられる。

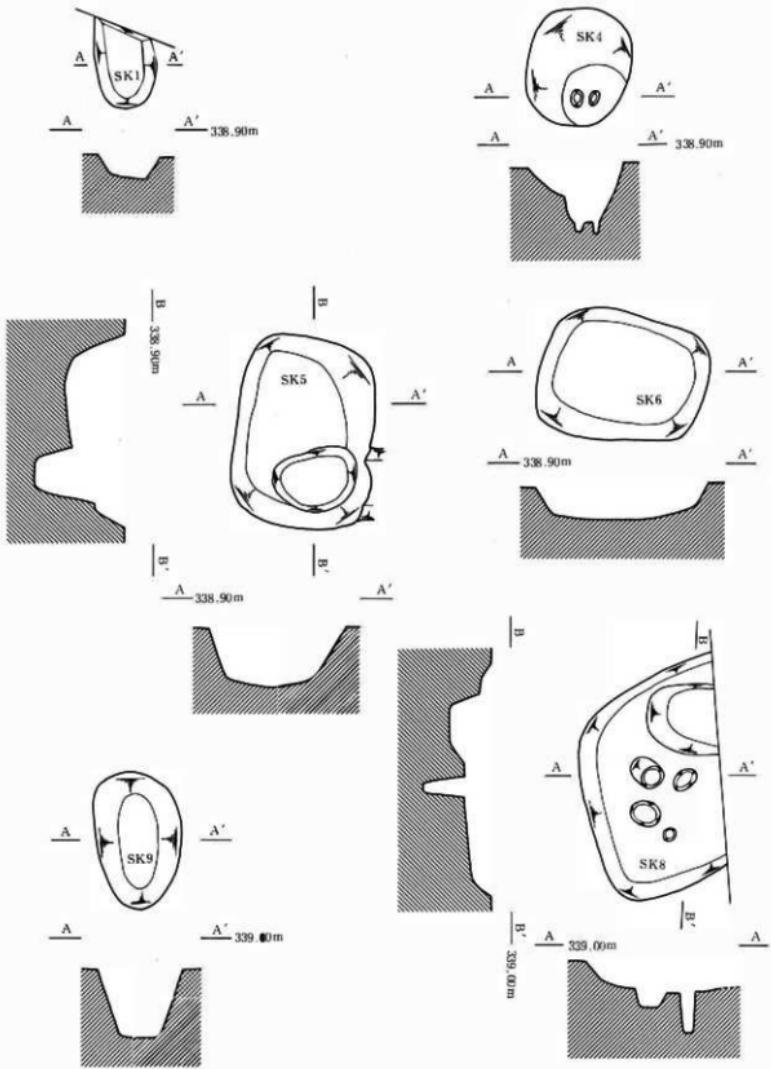


図15 土壌実測図 (1 : 60)

中世土葬墓

1号墓址 (図16)

調査区北側中央付近にて検出されたもので、墓壙は $0.65 \times 0.85m$ ほどの隅丸長方形をなし、確認面からの掘り込みは平均30cm前後である。

人骨は頭位を北にし、体は西側に向けた横臥屈葬である。墓壙内より若干の土器破片が出土しているが、明確に副葬品ととらえられるものはない。また墓標的な施設等も確認されていない。

2号墓址 (図17)

1号墓址の西側4mほどのところに検出された。下層の1号溝址の調査中に検出されたもので、墓壙の掘り込み等把握しえなかつた。

1号墓址に比べ人骨の遺存状況は悪く詳細は不明な部分が多い。頭位を西にし、体は南側に向けた横臥屈葬と考えられる。1号墓址同様明確に副葬品ととらえられるものは検出されていない。

出土人骨については別項で述べられるので詳述しないが、1号墓址は壮年の男性、2号墓址は女性と考えられる。

これらの墓址は、明確な副葬品が全く伴わないとめに、その時代については不明と言わざるを得ないが、2号墓址は平安時代に比定される1号溝址が埋まりきった後に掘り込まれていることより、少なくとも中世以降の所産と考えられる。

中世土葬墓の県内における良好な検出例はいまだ少なく、類例は僅少であるが、全国的に横臥屈葬が一般化するのは鎌倉～室町時代と考えられており、本例も同様の時代に比定される可能性が高い。

1号墓址と2号墓址とでは埋葬頭位が異なるが、それが時期差によるものかそれとも別の要因によるものかも今後の課題であろう。少なくとも中世の墓域が、本調査区より北東側に展開している可能性はきわめて高いものと考えられる。

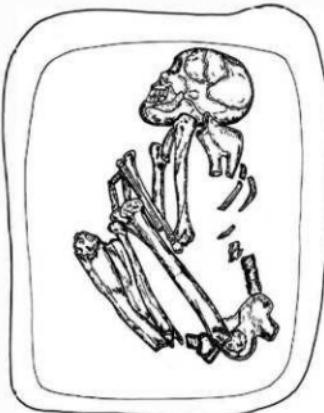


図16 1号墓址実測図 (1 : 10)

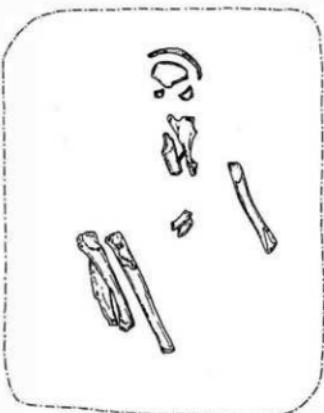


図17 2号墓址実測図 (1 : 10)

1号溝址 (図18~21)

調査区中央付近を、北東から南西に直線的に横切る形で検出された溝址である。検出された長さは12m程で、上面幅は広いところで1,90m、狭いところで1,10mを測り、溝底幅は広いところで1,10m、狭いところで0,50mである。深さは平均40~50cm前後と比較的深く、断面は基本的に逆台形を呈する。本溝址が埋まりきった後に、2号墓址が掘り込まれている。

覆土内より平安期の土師器・須恵器が比較的多量に出土している。

2号溝址 (図5、19)

調査区北東隅で検出されたもので、大半は調査区外となり、また5号土壙に切られるために詳細は不明である。幅は平均1,10m程で、深さは40cm前後である。断面は逆台形を呈する。

覆土内より平安期の須恵器が出土している。

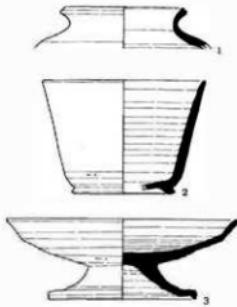


図19 2号溝址出土土器実測図

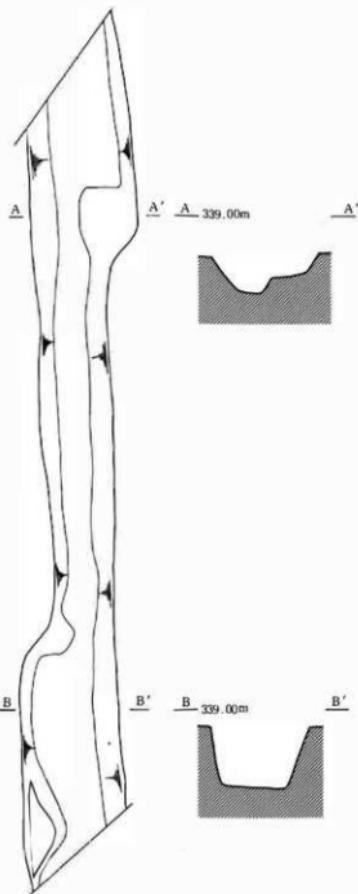


図18 1号溝址実測図

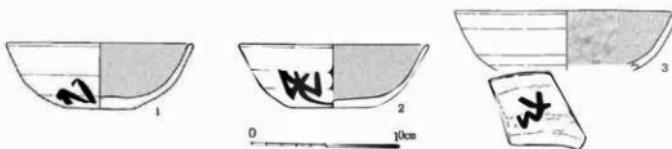


図20 1号溝址出土土器実測図① (1 : 3)

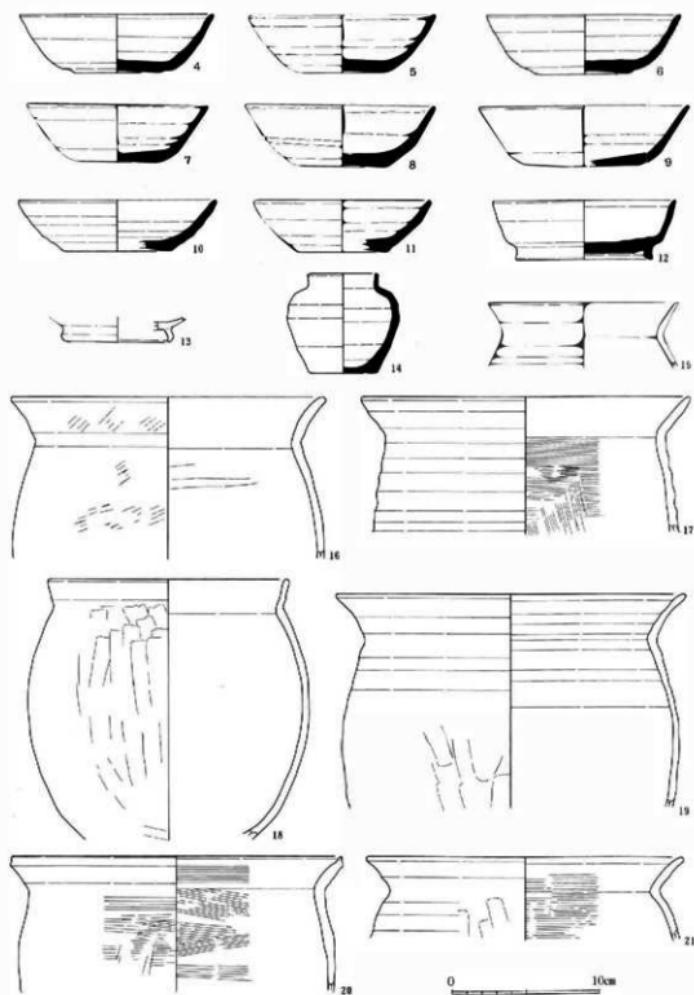


图21 1号墓出土土器实测图② (1 : 3)

第4章 岩崎遺跡出土の人骨について

信州大学医学部 西沢寿晃

第1号墓址（1号人骨）、第2号墓址（2号人骨）から各1体の人骨が出土した。それぞれの人骨は比較的良好な保存状態で、頸蓋骨や四肢骨の一部などで原形を留める部分が多い。しかし脆く細小な部位の骨のはほとんどは崩壊し、微細な骨片となって残る。

以下、人骨の残存状態や形質についての概要を記載する。

第1号人骨

頸蓋骨：脳頭蓋は大形片として残るが、完全な接合はできない。冠状縫合の一部の観察では内板は閉鎖し、外板でも癒着が生じている。外後頸隆起はかなり強度に突出するが、上項線や項面は通常である。内後頭稜は鋭い。乳様突起は円型で大きく、下頬窩も深い。外耳孔は卵円型で大きい。眉弓の隆起は明瞭で頰骨は強く張り出す。上顎骨はほぼ完存し、歯槽突起が著明である。下顎骨も完存する。頸丈な形態で、顎舌骨筋線や斜線の発達はきわめて強度である。翼突起粗面は強い結節状となり、下顎小舌も鋭い。

歯の残存と咬耗：歯の残存状態は次のとおりである。

8 7 6 5 4 3 2 1		1 2 3 4 5 6 7 8
X 7 6 5 4 3 2		1 ○ 3 4 5 6 7 8

○：脱落閉鎖 X：未萌出閉鎖

上・下顎の咬合様式は鉄状咬合である。各歯に共通する咬耗状態として切歯や舌側面（上顎）に象牙質が線状に露出、小白歯では各咬頭に限定される咬耗または頬側咬頭に象牙質の露出、大臼歯は咬合面が水平状となり、また点状の露出が面的に拡大する傾向などがみられる。咬耗度はBrocaの1度ないし2度に相当する。

鎖骨：左右とも胸骨端を欠くが、ほぼ完存する。骨体は頸丈であるが、鎖骨下筋溝がやや深い程度で、各粗面の形成は弱い。

上腕骨：上・下端の一部を欠くが保存は良い。関節部分が比較的大きく、骨体の捻転が強い。頸丈な形態で三角筋粗面や大結節稜はかなり強度に発達する。

桡骨・尺骨：尺骨の下半や細部を欠くが、それぞれ保存は良い。各骨間線の発達は強く、特に尺骨の中央部は鋭く張り出す。回外筋稜も強く、尺骨粗面の陥凹もいちじるしい。

寛骨：腸骨の一部などが残るが、大坐骨切痕は深く、寛骨臼も大きく深い。

大腿骨：右下端、左下端を欠くが、ほぼ完存する。骨体は伸直で、骨表面は滑沢である。殿筋粗面や恥骨筋線、粗線の発達は絶じて強くない。全体的にやや繊細な形態といえる。最大長（両側を並列させて推測）約400、骨体中央矢状径280、同横径234、上部横径303、同矢状径239（単位mm）、中央断面示数119.66、同上部示数78.88。

脛骨：左右とも上・下端を欠く。長大ではないがかなり頸丈性を具える。ヒラメ筋線は強く一部結節状となる。骨間線も鋭い。右脛骨と右腓骨とともに骨折による変形が広範囲に現われている。X線による観察の結果、脛骨骨体上方1/3の位置から、脛骨骨体の中央部に向かう外側上方からの斜めに走る斜骨折の痕が認められる。治癒に伴う骨性仮骨の増殖により患部を中心にいちじるしい膨隆・変形が生じ、骨表面は粗糙となる。

その他、椎骨や肋骨はすべて崩壊し細片となって残存する。

性別・年令について：各骨は長大ではないが、かなり頸丈な形質が多く見受けられ、歯の咬耗の程度からも、壮年期の男性人骨と推定される。大腿骨最大長からの推定身長（藤井）は約154cmとなる。

2号人骨

頭蓋骨：頭蓋の各部分は大形の破片として残存するが、顔面骨や頭蓋底はすべて破損し細かな骨片となる。骨壁は比較的薄い。ラムダ縫合の離開は認められるが、他の部分は不明である。乳様突起は残る基部の形からみて小形である。眉弓の発達は弱度で、鼻根の陥凹もきわめて平板である。下頬骨の骨体中央部分がわずかに残るが、オトガイ隆起は弱く、また破碎のため明瞭でないが、前歯部での歯槽閉鎖が生じている様子で、オトガイ高はかなり低い。歯が3本残存している。下頬左第2大臼歯が完形を保つが、各咬頭は咬耗により消失し、咬合面はほぼ水平状となる。その辺縁にエナメル質が稜状に残り、象牙質の露出が拡大している。歯頬の一部にう蝕痕が見られる。他の2本は小白歯とみられるが、咬耗は歯頭部に達する水平面となり、辺縁にわずかにエナメル質が残存する。いずれも咬耗度はBrocaの2度ないし3度に相当する。

上腕骨：左、骨体の下半部（約10.5cm）と滑車部分が残存するが、細くきやしゃな形態である。

大脚骨：骨体の中央部分（右、約21.5cm、左約18.0cm）が残存。かなりきやしゃな形態で、蹠筋粗面や恥骨筋線などの筋付着部の発達は弱い。粗線もわずかに隆起する程度である。骨体中央矢状径210、同横径230、(単位mm)、同断面示数91.30。

その他には鎖骨、橈骨、脛骨、指骨などの細片が少量残るのみである。

性別・年令について：骨は断片的な箇所が多く確定的ではないが、全体として繊細できやしゃな形状がみられ、女性人骨と見なされる。残存歯も少数であるが、咬耗はいちじるしく進行しかなり高年齢（熟年期）の人骨と推定される。



1号人骨出土状況



2号人骨出土状況



岩崎遺跡出土人骨（上左：第2号人骨 上右、下段：第1号人骨）

番号	器種	法量(cm)			遺存度	種別	成形・調整・文様			備考
		口径	底径	器高			外 面	内 面		
1 号住居址										
1	环	8.4	6.3	4.2	1/2	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り 墨書	ロクロナデ	床	
2	环	13.0			1/8	須恵	ロクロナデ 墨書	ロクロナデ	覆土	
3	环	12.4			1/3	須恵	ロクロナデ 墨書	ロクロナデ	覆土	
4	环	13.6			1/4	須恵	ロクロナデ 墨書	ロクロナデ	覆土	
5	环	12.5			1/6	須恵	ロクロナデ 墨書	ロクロナデ	床	
6	环	13.3	6.8	3.8	1/2	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り	ロクロナデ	覆土	
7	环	12.9	6.2	3.9	1/4	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り	ロクロナデ	覆土	
8	环	12.7	5.7	3.3	1/3	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り	ロクロナデ	床	
9	环	12.9	6.7	3.6	1/3	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り	ロクロナデ	覆土	
10	环	11.6	5.7	3.7	1/4	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り	ロクロナデ	覆土	
11	环	12.5	5.9	3.6	1/4	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り	ロクロナデ	覆土	
12	环	11.9	5.3	4.1	1/5	土師	ロクロナデ 底部:回転糸切り	磨き—黒色処理	柱穴	
13	环	14.2			1/4	土師	ロクロナデ—回転ケズリ 墨書	磨き—黒色処理	覆土	
14	环	15.6			1/4	土師	ロクロナデ—回転ケズリ 墨書	磨き—黒色処理	覆土	
15	环	12.6	5.6	4.3	1/5	土師	ロクロナデ—静止ケズリ 底部:静止ケズリ	磨き—黒色処理	覆土	
16	环		7.3		1/3	土師	ロクロナデ—回転ケズリ 底部:回転ケズリ	磨き—黒色処理	覆土	
17	环				1/4	土師	ロクロナデ	磨き—黒色処理	覆土	
18	环		13.7		1/4	土師	ロクロナデ	磨き—黒色処理	覆土	
19	甕	9.8	5.4	7.5	1/3	土師	ケズリーナデ 底部:ケズリーナデ	跑ナデーナデ	覆土	
20	甕		5.0		1/4	土師	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土	
21	甕	11.2			1/5	土師	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土	
22	甕	11.6			1/6	土師	ロクロナデ	ロクロナデ カキメ	覆土	
23	甕				土師	ロクロナデ	ロクロナデ ハケ	覆土		
24	甕				土師	ロクロナデ—ケズリ	ロクロナデ	覆土		
25	甕				土師	ロクロナデ	カキメ	覆土		
26	甕				土師	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土		
27	甕				土師	ロクロナデ	ハケ	覆土		
28	瓶				土師	ロクロナデ—回転ケズリ 底部:回転ケズリ	磨き—黒色処理	覆土		
29	甕	12.7			1/8	灰釉	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土	
30	瓶		9.9		1/4	灰釉	ロクロナデ—回転ケズリ 底部:回転ケズリ	ロクロナデ	柱穴	
2 号住居址										
1	环	12.8	6.4	4.0	1/8	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り	ロクロナデ	覆土	
2	环	12.0	6.3	3.7	1/4	須恵	ロクロナデ 底部:回転ケズリ	ロクロナデ	覆土	
3	环	12.8			1/6	土師	ロクロナデ—横磨き	磨き—黒色処理	覆土	
4	环	14.0			1/6	土師	ロクロナデ 墨書	磨き—黒色処理	覆土	
5	甕	12.6			1/6	土師	ロクロナデ	磨き—黒色処理	覆土	
6	瓶	16.8			1/8	灰釉	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土	
7	瓶		6.0		1/8	灰釉	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土	
8	瓶		7.1		1/4	綠釉	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土	
3 号住居址										
1	环	12.2	6.4	3.7	1/2	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り	ロクロナデ	覆土	
2	环	12.9	6.6	3.5	完	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り	ロクロナデ	覆土	

出土土器観察表①

番号	器種	法量(cm)			遺存度	種別	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外 面	内 面	
3号住居址									
3	坏	13.5	7.5	3.8	1/4	須恵	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ロクロナデ	覆土
4	坏	12.7	6.0	3.7	1/3	須恵	ロクロナデ 底部：回転糸切り 墨書き	ロクロナデ	覆土
5	坏	13.7	6.2	4.5	2/3	須恵	ロクロナデ 底部：回転糸切り 墨書き	ロクロナデ	覆土
6	坏					須恵	ロクロナデ 墨書き	ロクロナデ	覆土
7	坏	14.0			1/5	須恵	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土
8	蓋				1/2	須恵	回転ケズリ	ロクロナデ	覆土
9	蓋				1/4	須恵	ロクロナデー回転ケズリ	ロクロナデ	覆土
10	蓋	17.7			1/4	須恵	ロクロナデー回転ケズリ	ロクロナデ	覆土
11	蓋	16.5			1/5	須恵	ロクロナデー回転ケズリ	ロクロナデ	覆土
12	蓋	14.3			1/2	須恵	ロクロナデー回転ケズリ	ロクロナデ	覆土
13	蓋	15.2			1/4	須恵	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土
14	坏	14.1	7.0	3.9	1/2	土師	ロクロナデー静止ケズリ 底部：静止ケズリ	磨き一黒色処理	覆土
15	坏	14.8	7.0	4.4	1/3	土師	ロクロナデー静止ケズリ 底部：回転糸切り	磨き一黒色処理	覆土
16	坏	13.4	7.3	4.4	1/3	土師	ロクロナデ 底部：回転糸切り	磨き一黒色処理	覆土
17	坏	14.0	6.8	3.6	1/3	土師	ロクロナデ 底部：回転糸切り	磨き一黒色処理	覆土
18	坏	14.1	6.5	4.0	1/6	土師	ロクロナデー静止ケズリ 底部：静止ケズリ	磨き一黒色処理	覆土
19	坏	15.0			1/6	土師	ロクロナデ	磨き一黒色処理	覆土
20	坏	12.0			1/4	土師	ロクロナデ	磨き一黒色処理	覆土
21	坏	13.6			1/6	土師	横ナデ ケズリ	ナデ	覆土
22	坏		4.6		1/3	土師	ロクロナデー静止ケズリ 底部：回転糸切り	磨き一黒色処理	覆土
23	坏	16.8	7.7	6.2	1/6	土師	ロクロナデ	磨き	覆土
24	坏	16.6	6.2	5.3	1/6	土師	ロクロナデー静止ケズリ 底部：回転糸きり	磨き一黒色処理	覆土
25	坏	16.0			1/4	土師	ロクロナデ	磨き一黒色処理	覆土
26	瓶	15.6	7.8	7.8	1/3	土師	横磨き 静止ケズリ 底部：静止ケズリ	磨き一黒色処理	覆土
27	甕		5.9		1/6	土師	ロクロナデーケズリ	ロクロナデ	覆土
28	甕	14.5			1/10	灰釉	ロクロナデー回転ケズリ	ロクロナデ	覆土
29	皿	10.9			1/4	土師	ロクロナデー磨き	ロクロナデ	覆土
30	甕		7.3		1/4	土師	ロクロナデ 底部：回転糸切り	磨き一黒色処理	覆土
31	甕		5.2		1/2	土師	ロクロナデ 底部：回転糸切り	ナデ	覆土
32	甕	21.8			1/4	土師	ロクロナデーケズリ	ロクロナデ カキメ	覆土
33	甕	22.0			1/4	土師	ロクロナデーケズリ	ロクロナデ カキメ	覆土
34	甕	12.2			1/6	土師	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土
35	甕	10.2			1/3	土師	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土
36	甕	13.6			1/4	土師	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土
37	甕	13.6			1/5	土師	ロクロナデ	ロクロナデ	覆土
38	甕	16.2			1/4	土師	ロクロナデーケズリ	ロクロナデ	覆土
2号溝址									
1	甕	9.8			1/4	須恵	ロクロナデ	ロクロナデ	
2	坏	13.4	8.5	9.4	1/4	須恵	ロクロナデー回転ケズリ	ロクロナデ	
3	甕	9.1	12.1		1/3	須恵	ロクロナデー回転ケズリ	ロクロナデ	
1号溝址									
1	坏	12.9	4.8	4.5	1/2	土師	ロクロナデ 墨書き	磨き一黒色処理	

出土土器観察表②

番号	器種	法量(cm)			遺存度	種別	成形・調整・文様			備考
		口径	底径	器高			外 面	内 面		
1号調査										
2	环	13.1	6.2	4.4	2/3	土師	ロクロナデ 底部:回転糸切り一静止ケズリ 墨書き		磨き一黒色処理	
3	环	15.5			1/8	土師	ロクロナデ一回転ケズリ 墨書き		磨き一黒色処理	
4	环	13.4	6.1	4.0	1/2	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り		ロクロナデ	
5	环	13.0	6.4	4.0	1/3	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り		ロクロナデ	
6	环	13.9	6.6	4.1	1/3	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り		ロクロナデ	
7	环	12.6	6.2	3.9	1/3	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り		ロクロナデ	
8	环	13.2	4.2	6.7	2/3	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り		ロクロナデ	
9	环	14.4	7.8	4.2	1/4	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り		ロクロナデ	
10	环	12.2	6.5	3.6	1/2	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り		ロクロナデ	
11	环	13.7	7.5	7.5	1/6	須恵	ロクロナデ 底部:回転糸切り		ロクロナデ	
12	环	12.5	9.4	4.1	1/3	須恵	ロクロナデ 底部:回転ケズリ		ロクロナデ	
13	碗		7.1		1/3	灰釉	ロクロナデ		ロクロナデ	
14	壺	4.9	4.7	6.8	1/2	須恵	ロクロナデ 底部:回転ケズリ		ロクロナデ	
15	甕	13.1			1/4	土師	ロクロナデ		ロクロナデ	
16	甕	21.7			1/6	土師	ハケ ナデ		ナデ	
17	甕	22.6			1/4	土師	ロクロナデ		ハケ	
18	甕	16.7			1/4	土師	ロクロナデ一ケズリ		ナデ	
19	甕	24.0			1/2	土師	ロクロナデ一ケズリ		ロクロナデ	
20	甕	22.7			1/6	土師	ロクロナデ カキメ		カキメ	
21	甕	21.8			1/5	土師	ロクロナデ一ケズリ		カキメ	

出土土器観察表③



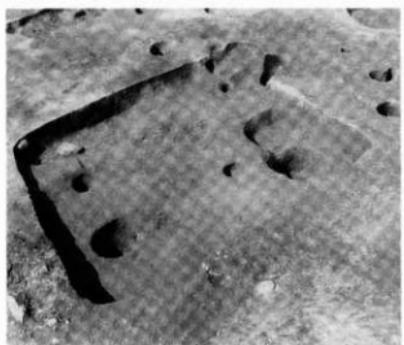
調査区全景



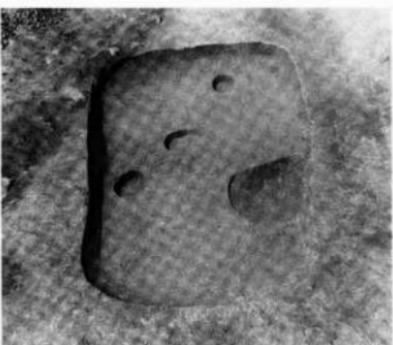
1号住居址



2号住居址



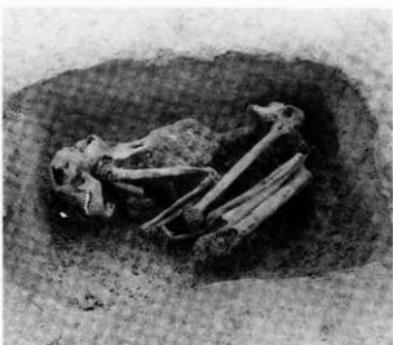
3号住居址



8号土壤



1号墓（東から）



2号墓（西から）



調査地周辺の地形

長野市の埋蔵文化財第53集

岩崎遺跡

平成5年3月20日 印刷
平成5年3月30日 発行

編集長野市教育委員会
発行長野市埋蔵文化財センター
印刷奥山印刷工業株式会社